

明石市ひきこもり相談センターの現状と課題

1 これまでの経緯・背景【資料3参照】

(1) 背景

ひきこもりが長期化し本人と親が高齢化し困窮する「8050 問題」の指摘から、内閣府の中高年齢層のひきこもりの調査が実施される等、社会的な関心が高まり、令和元年 7 月 1 日にひきこもり相談支援課を新設した。その後、ひきこもり当事者が「精神的な疾患」や「希死念慮」などの問題を内包するケースもあることが分かってきたことから、令和 3 年度からは、ひきこもりだけでなく、精神保健や自殺予防も含めた総合的な視点を活かした支援となるよう、相談支援課としてひきこもり支援を継続している。

さらに令和4年度からは、明石市ひきこもり相談センターを設置し、市内におけるひきこもり相談の窓口を明確化し、専門職の配置を充実させることによる専門性の高い支援を安定的に継続実施することを目指している。

(2) 第 2 回ネットワーク会議での委員意見

令和 3 年 12 月に開催された第 2 回明石市ひきこもり支援関係機関ネットワーク会議では、第 1 回会議で委員から出された意見、課題に対する支援の方向性を示し、各機関の具体的な取組みの整理を行った。意見交換を整理すると、右の3点にまとめられる。

【第 2 回 委員意見まとめ】

- ① 相談先の効果的な情報発信
- ② 相談しやすいひきこもりの理解促進
- ③ 事例検討会等を通じた多機関協働の推進

① 相談先の効果的な情報発信

- ひきこもり支援のための相談窓口もでき、いろいろな相談窓口があるが、それらをすべてまとめることは民生委員・児童委員には難しい。(民生・児童委員協議会/柳瀬委員)
- 「いろんな相談窓口がこういうところにある」という情報が、当事者若しくは家族、ひきこもり以外の方にまだまだいきわたっていないところがある。(市社会福祉協議会/山下委員)

② 相談しやすいひきこもりの理解促進

- 情報発信だけではなく相談のハードルを下げるような、市民みんながひきこもりの理解をするよう、そういう啓発的な要素が入ってくるのが大事。(市社会福祉協議会/山下委員)
- 「我々は行きますよ」「相談を受けますよ」と言ったところで、どれくらいの人を知っているのだろうかということが一番もどかしい。(明石市医師会/財田委員)

③ 事例検討会等を通じた多機関協働の推進

- 地域総合支援センターだけでは到底対応もできないので、「この場合はどうしたらいいのか」ということについては、多機関協働により、相談支援課にもご協力を求めている。(地域総合支援センター/市川委員)
- 「8050問題」については、我々としては、関係機関から情報提供をいただくことが大前提になる。各相談窓口で就業に関する相談があれば、就業支援の相談窓口として我々をご紹介いただくことが大切なことと考えている。(あかし若者サポートステーション/嶋谷委員)
- 近隣の NPO 法人とは親しくしており、そこでボランティアと繋げられるよう、動ければと思ってい

る。(兵庫 SPO 支援センター/李委員)

- 不登校からひきこもりに移行しないよう、どのようにかかわっていくか。孤立している方を住民が見つけた時にどこへつなげるか、いつも悩ましい。(明石市連合まちづくり協議会/大西委員)。
- ともにどうすれば主体性を発揮できるかについて、姫路市では、多職種、多機関による事例検討会を開催していて、関係が薄い部署も巻き込むことで、新たな知恵をいただける。事例検討を通して、具体的な事例をあげ、「こんなふうにはやったらいいんだな」「お互いに役割があるんだな」と認識しあえるよい機会になる。(兵庫ひきこもり相談支援センター播磨ランチ/都出委員)

2 明石市ひきこもり相談センターの今年度の取組み

(1) 明石市ひきこもり相談センター設置(令和4年4月)

- ひきこもり相談支援課設置から約3年の知見を深め、さらにきめ細かな支援を行うため、「明石市ひきこもり相談センター」を設置。
- 専門職20名配置 ※精神保健等と兼務
- 居場所づくり(民間団体に運営費助成):2か所→4か所へ拡充【資料4参照】

(2) 今年度の取組み

第2回ネットワーク会議での意見交換を受けた今年度の取組みは以下のとおり。

- ① 相談先の効果的な情報発信
 - ・ 明石市ひきこもり相談センターチラシの作成・頒布
 - ・ 広報あかし4月15日号掲載
- ② 相談しやすいひきこもりの理解促進
 - ・ 出前講座の開催(4回/72名参加)
- ③ 事例検討会等を通じた多機関連携の推進
 - ・ 第3回明石市ひきこもり支援関係機関ネットワーク会議の開催

(3) 相談件数

【ひきこもり専門相談(延べ件数)】

年度	電話相談 (専門ダイヤル等)	メール相談 (Webサイト・手紙)	面接相談	訪問相談	オンライン 相談	その他	計
R元	471	27	211	57	—	—	766
R2	992	106	343	157	4	48	1,650
R3	506	97	339	85	0	12	1,039
計	1,969	230	893	299	4	60	3,455
構成比	57%	7%	26%	9%	0%	2%	100%

(令和4年3月末現在)

※ 「ひきこもり相談支援課」から「相談支援課」への組織変更にもない、令和3年度から集計方法が変更されています。